

令和6年度 糸魚川ジオパーク学術研究奨励事業 研究概要

No.1 城本高輝（松本大学）

【研究の名称】

糸魚川ジオパークのワーケーション推進に関する研究

【背景と目的】

日本全国において、特に地方部において人口減少・少子高齢化問題は深刻な状況となっている。人口減少・少子高齢化問題は短期的に改善することが困難であるため、日本は、少子高齢化・人口減少問題と向き合いながら関係人口の創出に取り組む必要がある。現在、日本政府は、地方創生に重点をおいた政策を強力に推進している。一方、コロナ禍で、人の価値観の変化やテクノロジーの進化により、働き方や余暇の過ごし方など従来のライフスタイルが変化し、地方創生に結びつこうとしている現象が見られるようになった。ワーケーションはその現象の一つと考えられ、都心部から地方部への関係人口創出の取り組みとしても注目を集めている。ワーケーションとは「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、観光地などの休暇先でリモートワークを行うことをいう。

ワーケーションは、以前より普及していたものの、研究が進められてきたのは最近である。よって、ワーケーションに関する先行研究において、学術的な議論は十分に行われていない。また、ワーケーションについては明確な定義がなく、現在もイメージが先行しており、ワーケーションを導入する企業、社員（個人）、地域・行政、関連事業者が、それぞれの観点でワーケーションを解釈し、事業を推進しているとされている。ワーケーションについての研究は、日本の将来を考えるうえで、学術的意義が非常に高い。特に、少子高齢化・人口減少問題が顕著となっている地方部でのワーケーションについての研究は、人口減少・少子高齢化に向き合う日本の社会デザインの探究に繋がるものであろう。

糸魚川ジオパークは、ほぼ中央を糸魚川-静岡構造線が通過しており、エリアによって地質や地形の成り立ちが異なっている。また、ジオパーク内には24か所のジオエリアが設定されており、日本列島の形成や糸魚川の文化・歴史を楽しく学ぶことができるようになっている。糸魚川ジオパークは、2008年に日本ジオパークとして、2009年にユネスコ世界ジオパークとして認定された。ミニコース（初心者向け、所要時間：90分～6時間）や一日コース（中級者・上級者向け、所要時間：7時間～3日）など、多様な観光モデルコースが用意されている。

糸魚川市は、市全体がジオパークとなっており、「糸魚川だからできる、ジオツーリズム×ワーケーション」として、ワーケーションの取り組みを推進している。糸魚川市は、北陸新幹線で東京から約2時間とアクセスが良いことや、「糸魚川市は、東西文化の境目になっている歴史的にも意義深い土地であり、3,000m級の山々から-1,000mの深海が織りなす高低差により、サーフィンやスノーボードなどさまざまなアクティビティを同時に楽しむことができる場所で、海と山の幸が一緒に楽しめるのもこの土地ならではの。魚・野菜・米・山菜どれも一級品です。」「親子で化石、植物、昆虫に触れ、学びの機会につなげることができたり、企業研修で地域課題・社会課題の調査ができたりと、ワーケーションとしての使い方も幅広く提供可能です。」「昔ながらの街並みの中で、海まで歩いていける場所で、山々に囲まれた大自然の中で、ご自身の目的に合わせて最適なワーケーションを過ごすことができる。それが、あえて糸魚川を選ぶ理由です。」とPRすることで、ワーケーションを地域の関係人口創出に繋げようとしている。

※日本海シーサイドテレワークより引用：<https://aete-itoigawa.com>

糸魚川ジオパークは、持続可能な地域社会を実現するために、地域の地形・地質、植物・生態、歴史・文化的な価値を持つ貴重な資源を良好に保全していくことが求められている。そのため、糸魚川ジオパークにおいては、多くの方々に知ってもらい、楽しんでもらうべく、ハード面・ソフト面を充実させる様々な取り組みが行われてきた。しかし、糸魚川ジオパークのエリアでも、人口減少・少子高齢化問題が深刻になっており、糸魚川ジオパークの機能保全のためにも、関係人口創出は不可欠と考えられる。よって、糸魚川ジオパークにおいてワーケーションの研究に取り組み、糸魚川ジオパークの持続可能な発展に貢献したい。

本研究は、糸魚川ジオパークにおけるワーケーションの学術的研究をとおして、人口減少社会と共存する糸魚川ジオパークの未来像の創出に取り組むことを目的としている。また、糸魚川ジオパークにおけるワーケーションに関する研究活動をとおして、日本のジオパーク全体の持続可能な発展につなげたい。

【研究内容】

以下のスケジュールにて、本研究を実施した。

| 日程 | 主な調査・研究等の概要 |
|----------|---|
| 7-9月 | 糸魚川ジオパークに関する文献調査、インターネット調査 糸魚川市役所への事前ヒアリング (事前調査) |
| 10/25(金) | ジオサイトの視察 |
| 10/26(土) | ジオサイトの視察 (本調査) |
| 12/5(木) | ジオパル訪問、ジオパーク担当者へのヒアリング |
| 12/6(金) | 長者温泉ゆとり館とツギハギの家の経営者へのヒアリング 糸魚川市役所商工観光課、ブラウン様、宮路様へのヒアリング ビーリフト合同会社村上様へのヒアリング ジオサイトの視察、記録取りまとめ作業 |
| 12/7(土) | フォッサマグナミュージアム 竹之内館長ヒアリング ジオサイトの視察、クラブハウス美山視察、記録取りまとめ作業 |
| 12/8(日) | ジオサイトの視察、記録取りまとめ作業 |
| 12/9(月) | 株式会社イールー 伊藤ディレクターヒアリング |
| 12-1月 | 調査結果取りまとめ、検証 |

今回の研究で得られた糸魚川ジオパークのワーケーションの課題などは、次のとおりである。

- ・ 個人型ワーケーションはメニューが豊富で、すでに充実しているのでは、企業型ワーケーションを今後増やすべきではないだろうか。
- ・ 個人型ワーケーションは、常にPRが必要で、個人が糸魚川ジオパークへのリピーターとなるかは不透明である。一方で、企業型ワーケーションは、企業との関係性からリピートする可能性が高く、ボリュームも期待できる。また地域課題解決につながる可能性も高く、新たな関係人口構築として有効であろう。
- ・ 新幹線が開通しているメリットを最大限に活かすためにも、都心部（関東圏）の企業を主なターゲットにすべきと考える。
- ・ キターレについては、個人型・企業型ワーケーションともに有効である。一方で、企業側ワーケーションを活性化すれば、クラブハウス美山をさらに有効活用できるのではないだろうか。
- ・ 日本海側はどうしても、冬が観光のシーズンオフになってしまう。企業型ワーケーションをさらに強化することで、冬のオフシーズンの地域活性化策に繋がられるのではないだろうか。

【研究のまとめ】

糸魚川ジオパーク（糸魚川市）は人口減少問題が深刻で、ワーケーションなどによる関係人口創出は重要である。糸魚川ジオパークでは、現在の個人型ワーケーションに加え、企業型ワーケーションをさらに活性化させる必要がある。まずは、企業の副業人材を積極的に活用し、企業型ワーケーションの基盤整備に繋がると良いだろう。また、企業版ふるさと納税（人材育成型）の導入も企業型ワーケーションにつながるものと考えられる。さらには、三陸ジオパークの株式会社かまいしDMCの企業型ワーケーションなどの取り組みを参考に、糸魚川ジオパークの企業型ワーケーションのスタイルを新たに構築すると良いだろう。

まずは、副業をとおして、人口減少問題にシェアリングから取り組み、ワーケーションの基盤整備につなげたい。さらに、福祉、観光全般、地域交通などに人材シェアリングの範囲を広げ、第3期糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に、「シェアリング」の項目を追加できれば良いのではないだろうか。

【参考資料】

日本海シーサイドテレワーク

<https://aete-itoigawa.com>

一般社団法人 糸魚川市観光協会

<https://itoigawa-taiken.net>

複業クラウド

<https://talent.aw-anotherworks.com>

第2期糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

<https://www.city.itoigawa.lg.jp/6574.htm>

企業版ふるさと納税（人材派遣型）

<https://www.city.nara.lg.jp/site/press-release/172922.html>

<https://www.youtube.com/watch?v=9mGY79e-01k&t=973s>

株式会社かまいしDMC

<https://www.workcation.visitkamaishi.jp>